

# 新しい地震対策を考える専門家向けセミナー

## 〈セッション8 構造物の解析と診断（その2）〉

今世紀に入り、地球環境が再び活動期に入り、豪雨、台風、地震に加え、感染症が猛威を振るっています。20世紀後半の静穏期に急成長した現代都市と経済社会システムは、その脆弱さを露呈し根本的な変革を迫られています。昨年専門家向けセミナーでは、5回に分けて、SRFとMTDという新しい診断と補強の方法をご紹介し、適用事例、東日本大震災、熊本地震等での実証についてご紹介しました。本年の第2ラウンドでは、数回に渡り、SRFとMTDを用いた新しい構造と評価法の原理と内容、これらを用いる方法と効果、および実施例について詳しくご説明します。

セッション7では、震動エネルギーを導入し、構造物の応答解析には地盤との境界面での作用力と速度を知る必要があること、地震の作用を慣性力として表現し、1次元モデルで応答を計算する方法は実現象とは大きく乖離することを示しました。構造物の震動解析モデルとして積層モデルを提案し、層の変位、回転、作用力を計測する方法を導きました。計測で得られた加速度、相対変位などの伝達率(RMSの比)を用いて各種の構造特性が抽出できることを不規則振動論によって導き、新築マンションのSRF補強前後の微動計測結果から得られたベースシア係数等の特性値を構造計算書の値と比較しました。これを受けて、セッション8では、動的解析の理論的な構造と課題を検討し、各種の建物に関する微動診断結果と動的解析結果の比較を行い、微動診断の有効性とSRF工法の補強効果を検証します。本セミナーが、年々厳しくなる地球環境に対する生活と事業継続に向けての方策、構造的な対策、新しい街と国の姿をお考えいただく機会となることを願っております。

日時

2021年6月17日(木)  
セミナー：13:30～14:30  
個別相談：14:40～

テーマ

〈セッション8〉  
構造物の解析と診断（その2）

過去開催分は当社ホームページよりご視聴いただけます。  
ご視聴はこちら [https://www.sqa.co.jp/opinion/seminar\\_application.html](https://www.sqa.co.jp/opinion/seminar_application.html)

開催方法

オンライン（ZOOM）

申込方法

当社ホームページの専用フォームよりお申込みください。  
お申込みはこちら [https://www.sqa.co.jp/opinion/online\\_seminar\\_form.html](https://www.sqa.co.jp/opinion/online_seminar_form.html)



講師  
構造品質保証研究所株式会社  
代表取締役社長

**五十嵐 俊一**

工学博士  
日本建築学会会員  
地盤工学会正会員  
コンクリート工学協会正会員

